

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	共用部分は地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼などで、理念の確認、読み上げ・復唱し、理念の共有に繋げている。	法人理念を支援の柱とし、年毎にスローガンを職員のアンケート投票にて選定し支援の柱として取り組んでいる。法人より配布される経営方針書の中から重要部分とポイント部分を毎朝朝礼にて唱和し考え方を共有し実践に繋げている。新人職員には管理者より考え方を説明し理解を深めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人員不足もあり、なかなか地域の行事への参加が少なかった。	自治会費を納め区の一員として活動し、地域の防災訓練にも参加している。地域情報誌「波田まちづくり通信」を届けていただき地域の情報を把握している。高校生の職場体験が毎年引き続き行われ、生徒1名当り4日間来訪し介助の手伝いやおやつ作り等で利用者とは交流している。各種ボランティアの来訪もあり12月には利用者家族の楽器演奏ボランティアが来訪され本格的な演奏を楽しんだという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会議を通じ、現状を伝え、理解に繋げて行く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現場から汲み上げた問題を運営推進会議で伝え相談している。出席者からの助言を全体会議で伝え、問題解決に繋げている。	町会長、民生委員、西部地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、別法人管理者、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回実施している。利用者の現状報告、職員状況や行事についての報告後、意見交換を行い、助言等も頂き、運営の向上のために役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告は迅速に行っている。	事故報告等については市高齢福祉課に速やかに報告している。必要事項について市の関連部署とメールにて連絡、相談を行っている。また、介護相談員の来訪について依頼を行う予定である。介護認定更新調査は家族に連絡の上ホームにて行い、立ち会われる家族もいる。県や市主催の研修会に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チーム・ご家族で検討し、安全に過ごせる対応・支援を行なっている。	身体拘束については話し合いを重ね情報を共有し拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠され出入りは人感センサーで解るようにしてあるが、近所の商店の方々に利用者を見掛けたら連絡いただくように協力をお願いしている。離脱傾向の強い方が数名いるが所在確認を小まめに行い、話を聞くことで気分転換を図っている。安全確保のため、家族と相談のうえセンサーマットや人感センサーを使用することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を用いて、虐待予防について学んでいる。最新のニュース等も話題にし、意識を高めている。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き、知識を養っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	大きく変更となる要項は、必ず書面で理解・サインを貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱への投書があれば、その内容に応じて、運営に反映していく。	ほとんどの利用者が自分の思いを伝えることができ、細かく話を聞くよう心掛けている。家族の来訪は毎週の方から年1~2回の方まで様々であるが、来訪の際には親しくお話するようにしている。月1回発行されるホーム便り「波田タイムス」と居室担当職員作成の写真入り手書きの利用者近況報告を家族にお届けし喜ばれている。敬老会やホームの秋祭りには家族の参加を多数いただき、ボランティアによる「太鼓」、「踊り」、更に「焼き芋」や「たこ焼き」等を味わい楽しいひと時を過ごしている。また、家族より「母の日」や「父の日」にお花が贈られているという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	仕事の中の、何気ない会話の中や、社外において、コミュニケーションの場を設けて、意見や要望を汲み上げていく。	全体会議では本社よりの連絡事項や運営全体の話があり、ユニット会議では利用者支援について話し合い、それぞれ月1回開催し運営に役立てている。開設から4年が経過し職員から積極的な意見が多数出るようになり、主任中心に事前に議題を検討し会議に臨み意見を汲み上げている。人事考課制度があり年2回、個人目標について自己評価を行い、管理者による個人面談も行われ全体のレベルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	特に、尽力し貢献している職員においては、年2回の査定に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は、月に一回行っている、社外の研修情報を提示し、スキルアップを目指す機会をもっと設けたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議に、他の事業所管理者に参加して貰った。その中で、双方が抱える問題を相談しあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	適度な声掛けを行い、第三者からの情報を踏まえながら、不安を取り除いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が望むサービスを出せる限り提供・対応し満足度を上げていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野で見極め、あらゆることを想定し、チームでケア計画を立てる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活らしさを忘れずに、お互いに支えあえる関係性を高める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの広報誌を定期的に発行し、見て頂くことにより、離れて居る事を感じさせないような絆を深める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人宛に連絡が来た際には、電話であれば繋ぎ、手紙であれば希望により、代筆などで返信のお手伝いをする。	知人や同級生、元同僚の来訪があり居室にてお茶をお出しし寛いでいただいている。手紙のやり取りをされている方もおられ、返信については職員が代筆し関係の継続をお手伝いしている。また、近くの理髪店まで歩いて散髪に行かれる方もおり馴染みの関係となっている。お墓詣りに家族と出掛け外泊される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態や、入居者様の相性を良く見極めた、関わりを持てる支援を提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その要望があれば、出来る限りの支援・助言をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との連携、ご家族との情報交換も適時行なっている。	職員は利用者に対しはっきりとした言葉で優しく笑顔で話しかけている。その様子を拝見するとお互いが信頼し合っていることが窺える。気になることは記録に残し家族の来訪時に相談し対応している。遠慮がちな利用者もいるので優しく声掛けを行い居室または入浴時に1対1で話を聞き希望に沿ったケアに繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る事、出来ていた事を把握し、その利用者が望む生活に繋げて行く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主治医、看護師、介護職員が個々の状態の把握・共有をしていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が面会に来られた際には、日常を伝えながら、ご家族の思いを計画に反映していく。	職員は1~2名の利用者を担当している。ユニット会議の席上担当職員の意見を中心に全職員でモニタリングを行い、利用者の状況に合わせ短期目標は3ヶ月~6ヶ月、長期目標については6ヶ月~12ヶ月で、家族の希望も取り入れ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要状態に応じて、普段の個別ケース記録の他に、連絡ノート作成し、細かい情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアに応じて、良い支援が見つければ積極的に、実践していく。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の四季の移り変わりを感じられる、外出レクリエーションを計画する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年1回の健康診断はご家族に対応して頂き、直接先生と話して貰う。また、日々の起こった変化は適時、主治医に連絡している。	全利用者がホーム協力医による月1回の往診を受けている。昨年より看護師が常駐するようになり日々の健康管理と薬のセット、また、健康チェックについては夜勤職員と共に2回行い、間違いが起こらないよう取り組んでいる。歯科も必要に応じ往診で対応し、併せて口腔ケアの勉強会を行い口の健康にも心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	チームの中で、報連相は常に徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の共有を徹底し、早期の退院に繋げて行く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・ご本人の気持ちを理解し、寄り添えるように、事前に終末期における対応の勉強会を開く。	重度化や終末期の指針があり利用契約時に説明し希望を聞いている。更に、その状況に至った時に再度希望を聞きそれに沿って支援している。その状況に直面した時には内部で勉強会を行い、医師や家族と連携を取りながら悔いのないよう気持ちを一つにし落ち着いて対応できるようにしている。開設以来4名の方の看取りを行ない、全利用者、職員でお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近隣の消防署と連携し、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議や地域の防災訓練に参加し、災害時の協力を仰いでいる。	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行い、AEDの使用実習、消火訓練、通報訓練等を実施している。利用者は年1回参加し、玄関先までの避難訓練を行っている。緊急連絡網の通達訓練も行い30分以内で全職員に連絡が取れるようにしている。地域の防災訓練の際にはホーム内部を公開し、地域の方にも避難経路を確認していただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の念で支援している。	人生の先輩として敬う気持ちを大切に親しみを込め話し掛け、「方言」等も使いながら支援に取り組んでいる。呼び掛けは苗字に「さん」付けでお呼びし、居室に入る際には「失礼します」と声掛けをするようにしている。特に入浴やイレ介助には気を遣い基本的に同性介助に心掛けている。ユニット内2ヶ所に談話スペースがありプライバシーの確保に配慮している。尊厳とプライバシーについて会議等で話し合いが持たれ、支援の際に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安全に行なえるように検討し、その意志に沿っていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先出来ない状態にある時は、他の職員に応援を頼んだり、理由を説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合わせた服装を提案する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理前後や食事前後の出来る準備を一緒に行っている。	ほとんどの利用者は自力で食事が出来る。献立と食材は業務用食材配食会社の物を使い、調理はホームで行っている。利用者の希望の物、また、行事の際にはホームで食材を調達し調理している。利用者の力に合わせ野菜等の下準備のお手伝いや10時・3時のおやつ作りをしていただき全員で楽しく食事を行っている。誕生日にはケーキでお祝いしたり希望により外食に出掛けることもある。また、敬老会の時には寿司職人を招き、食べ放題のお寿司を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体の状態を目視と記録から把握し支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、個々に合わせたケアを常に行っている。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失禁による不快に感じる時間を出来るだけ減らしていく。	自立の方が数名、全介助の方が若干名で、残りの方は大部分見守りでの一部介助という状況である。排泄チェック表を作成し利用者の状況に応じて声掛けを行いトイレにお連れしている。排泄自立支援の中で週2回ヨーグルトの摂取を行い、時として声掛けの時間を変えたり、人を変えたりして支援に取り組んでいる。また、トイレ入り口の案内表示を「トイレ」から「お便所」に変え、利用者に解るように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や身体活動、内服薬を調整し、予防していく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な、入浴日は決まっているが、気分に合わせて変更対応している。	平日の4日間を入浴日とし週2回以上入浴を行っている。自立の方が若干名で他の利用者は何らかの介助が必要である。1、2階の浴室の形状、浴槽の深さが異なるため利用者に応じ浴室を使い分け入浴を実施している。入浴拒否の方には日を変え、人を変えながら工夫をしながら対応している。季節に応じ「ゆず湯」、「菖蒲湯」等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を増やし、お昼寝においても長くなり過ぎないように声掛けし、夜間の良眠に繋げる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議で最新の状態を把握し、配薬表を確認しながら、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に活動できる作業や嗜好品を提供する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる外出レクリエーションを計画し、出掛けている。	年間行事計画があり季節に合わせて「お花見」、「バラ園見学」、「ブドウ狩り」等に出掛けている。また、天気の良い日には少人数に分かれドライブに出掛け季節の花を楽しみ、途中アイスクリームを食べたりして外出を楽しんでいる。更に、家族と外出し食事を楽しまれる利用者もいる。その他、夏には「花火」、「スイカ割」、「流しソーメン」、秋には「運動会」、「秋祭り」等で行事を楽しんでいる。	

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る入居者様には、付き添いの中で自由に買い物をして貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体に負担が無く、快適に過ごす事が出来るように、空調やその他の設備管理を行っている。	共用部分は掃除が行き届き清潔感が溢れ、十分な広さが確保されている。廊下の壁には数多くの絵画が飾られ落ち着いた雰囲気を醸し出している。廊下には畳イス、また、談話スペースにはソファが用意され一人で過ごしたり、家族来訪時の寛ぎスペースとなるよう工夫されている。空調はエアコンと床暖房を使用し快適な生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にお茶が飲めるポットは設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際から、馴染みの物があればお持ち下さいとお伝えしている。	居室入口には色紙台の絵画が飾られ落ち着いた雰囲気を演出している。居室内には洗面台と大きなクローゼットが備え付けられている。使い慣れた家具、衣装ケース、家族の写真、テレビ、仏壇等が持ち込まれ思い思いの生活が送られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ないことであって、方法を伝え、出来た時の喜びを感じて貰えるように支援する。		